

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 名 称 | ドキ・ワク阿ミ〜児 |
| 所 在 地 | 〒517-0502 三重県志摩市阿児町神明1074-14 阿児アリーナ内 |
| 連 絡 先 | TEL : 0599-43-7000 FAX : 0599-43-7003 |

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 阿児町 23,586人 (志摩市全体 60,350人)

阿児町は、伊勢志摩国立公園内に位置し、気候風土は四季を通じて温暖で恵まれた条件となっている。古くは豊かな海の幸を都に献上する御食国(みけつくに)として知られており、水産業・農業や観光業を中心として発展してきた。真珠で有名な英虞湾に代表される自然豊かな地域であり、雄大な太平洋と複雑な形態を織りなすリアス式海岸に囲まれている。両方の海が一望できる横山には、多数の植物が群生し、県内外を問わず多くの人々が憩いの場として訪れる。昨年11月には、当地を中心に「第48回自然公園大会」が開催され、全国から大勢の参加者が来町した。このような自然豊かな環境を背景に、志摩市青少年育成市民会議・スポーツ少年団・NPOなどの団体が、休日の子どもの居場所づくりに積極的な協力をしてきている。近年、家庭・学校・地域・行政の連携体制も充実し、子どもたちが健やかに育つ環境整備と、施策推進に取り組んでいる。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「ドキ・ワクチェンソーアート&大流しそうめん大会」

社会福祉協議会と地域ボランティア、NPO、行政が連携することにより今回の事業は実現した。対象は町内の児童・生徒・保護者ならびに障がい者デイサービスセンター利用者の方々である。昨年7月1日、阿児アリーナおよび芝生公園を会場に実施した。

チェンソーアートには、世界で活躍するチェンソーアーティスト松田玲さんを招き、参加者の目の前でパフォーマンスを披露してもらった。軽快な音楽に合わせて激しく唸るチェンソーから繰り出される数々の技。一本の丸太がみるみるうちに魂を込められた作品に変容していく様に、参加者からは驚愕の声が漏れていた。また、子どもたちには小さめのチェンソー(安全なもの)を持たせてもらったことで、その迫力が体感でき貴重な経験となった。現在完成した作品(熊の置物)は阿児アリーナの正面玄関に置いてあり、来訪者から賞賛の声をいただいている。

大流しそうめん大会は、阿児アリーナ芝生広場で行った。芝生広場の斜面を利用して、全

長120mの流しそうめん台を設置したが、278人という多数の参加者だったため隣の人と触れ合うほどの混雑した状況となった。しかしそのことが幸いし、知らず知らずのうちにコミュニケーションが取れ、知らない家族同士会話が弾んでいった。大流しそうめん大会では、そうめん以外に果物や白玉団子などいろんな物も流した。その中の一つに「竹宝」があった。「竹宝」とは、数字が書いてある小さな竹片で、拾った参加者には抽選でチェンソーアーティスト松田さんの作品がプレゼントされた。

大流しそうめん大会で使った材料は食材以外すべて手作りで賄った。120mもの長さの流しそうめん台を作るとなると大量の竹が必要であり、切り出し・加工にはずいぶん苦労した。実施日（7月1日）に合わせ竹を調達しなければならなかったため、切り出し作業は梅雨真っ盛りの中行った。竹はその性質上かびが生えやすく節を取ればすぐ反り返るため、長期間の保存がきかない。そのため作業は時間との戦いでもあった。そうめん台で使わない部分は器や箸として加工した。大勢のボランティアさんに協力していただき、約300組の器と箸が完成した。ささくれだった箇所ではケガをしないよう、一つ一つ丁寧にサンドペーパーをかけてくれたおかげで素晴らしい物が出来上がり、参加者の評判も上々だった。

今回事業を実施するにあたり2本の柱を設定した。一つは親（保護者）子での参加呼びかけである。親子がともに参加することで、より一層家族の絆が深まり、ひいてはそれが家庭教育力の向上につながることを期待してのものである。もう一つの柱は、家庭における人権・福祉教育の充実である。ドキ・ワク阿ミ〜児では、ふだんの事業から福祉団体との連携が多く、通所授産施設でのイベントなども行っている。家庭内では語り合うことの少ない人権・福祉問題を当日の体感をもとに考え合ってくれば、家庭における福祉意識の高揚につながると思う。

当日は、町内を中心に多くの家族、障がい者の方々が参加してくれた。あらゆる人々が自然なままで交流し、楽しい時間が過ごせた。昨日まで顔も名前も知らなかった者同士、語り合い、笑い合った。中には電話番号を交換しあう家族もあり、その関係は現在まで続いているという。子どもたちの大歓声に包まれた芝生広場は、今年もまた大流しそうめん大会の始まりを静かに待っている。

コーディネートの実際

今回実施した「ドキ・ワクチェンソーアート&大流しそうめん大会」には、親子触れ合い活動のほか、様々な人と人との出会いの中から、人権・福祉意識の高揚と、家庭における人権・福祉教育の充実をめざすねらいがあった。しかし、事業実施にあたり問題も山積していた。それは、ドキ・ワク阿ミ〜児発足当時の課題でもあった、町内の公立学校および保育所、幼稚園に通っていない子どもたちへの参加周知である。あらゆる事情から養護学校や福祉施設等へ通う子どもたちへの事業開催周知は、関係機関との連携不足もあり難しかった。つまり重要な課題を積み残したまま事業を続けてきたのである。同じ町に生まれ、同じ町で育っているそういった子どもたちが、参加しない（できない）状況の中で、事業に対する矛盾点だけが膨らんでいった。すべての子どもたちや家族が、何のバリアも感じず参加できる

事業にするにはどうすればいいか。この時、ドキ・ワク阿ミ～児の目指す体験活動の柱が見えたような気がした。

多くの課題を抱えたままでの事業実施に向け、大きな力となってくれたのが志摩市社会福祉協議会である。関係職員に諸々の悩みを相談していくうちに、社会福祉協議会と協働することでその多くを解決できることがわかってきた。社会福祉協議会の持つネットワークにより、参加周知の徹底はおろか障がい者の方々への送迎まで可能となった。また、社会福祉協議会内にあるボランティアセンターには、地域ボランティアサークルが数多く加盟しており、積極的な協力をしてくれることもわかった。さっそく事業実施に向けた話し合いをボランティアセンター担当者を持った。その中で地域ボランティアの方々をお願いすること、民生委員・児童委員や福祉委員をお願いすることなどが決まっていた。社会福祉協議会の呼びかけにより賛同してくれた団体は7団体に及んだ。他にもNPO団体や環境省横山ビジターセンター・パークボランティアの人たちも名乗り出てくれ、多くの力強い協力者を得ることができた。推進協議会関係者、社協、行政以外で事前準備から当日の運営にわたるまで協力してくれたのは、

- ・ いちごの会（子育てサークル）
- ・ ほっとひろば（子育てサークル）
- ・ アリス（障がい者支援団体）
- ・ 悠湯（社協協力美化サークル）
- ・ TEAM笑美S（障がい者・高齢者支援団体）
- ・ あゆむ会（視覚障がい者支援団体）
- ・ 横山ビジターセンター・パークボランティア（環境省）
- ・ 民生委員・児童委員
- ・ 福祉委員

の方々である。雨天の中切り出してきた多数の竹を半分に分けて、一本一本丁寧に節を落としてくれた民生委員・児童委員、福祉委員の方々。器や箸・竹宝となる部分を細かく加工してくれたパークボランティアの方々。障がい者の人たちや子どもたちを優しく見守ってくれた支援団体や子育てサークルの方々。食材の調達から調理・運搬までを受け持ってくれた地域ボランティアの方々。特に運搬は調理場所から流し口まで相当な距離があったため、そうめんがのびないように全速力で走っていただいた姿が印象的だった。こういった大勢の協力者のおかげで何事もなく事業は無事終了した。

後日取材に来ていたケーブルテレビの放映を見て、画面一杯にあふれる参加者の笑顔を見たとき、今まで抱えてきたドキ・ワク阿ミ～児の存在意義や方向性への不安が解消されたような気がした。事業後参加者から「来年もぜひ参加したい」「これからもぜひ続けてほしい」「障がい者の人たちとの交流の中らいろんなことが学べた」「知らない家族と友だちになれて嬉しかった」等の意見もたくさんいただいた。反省会の中では、天候に左右されやすい梅雨どき開催の難しさや、衛生面に対する徹底。合理的な役割分担の方法などが出された。こういった意見を参考に、来年度もぜひたくさん子どもたち、家族から喜ばれるような企画・運営を行うことをスタッフ全体で確認した。

ドキ・ワク阿ミ～児は発足から今年で丸5年目を迎える。その間、試行錯誤の繰り返しだった。阿児町の中でこういった役割が担えるのか。現在子どもたちや保護者の思いはどこ

にあるのか。目指すべき真の子どもたちの姿とは。他団体と連携する場合やコーディネートする場合どういった方向性を目指せばよいのか等々、暗中模索の日々が続いた。しかし、「すべての子ども、家族が何のためらいもなく参加できる」ことを主眼に置いたとき数々の迷いが消えた。主体者がしっかりとしたねらいを持つことで、その主旨に賛同し協力してくれる人たちはたくさん現れるのである。今回の企画をした時、事業の内容とともに何度も何度もねらいや思いをぶつけ合ったことが、想像以上の協力者を得たことにつながったと思う。今後もドキ・ワク阿ミ～児は、人と人とのつながりを大切にしながら、しっかりとした方向性を持ち「すべての子ども、家族が何のためらいもなく参加できる」ことを目指し取り組んでいきたいと考えている。



外国の方にも喜ばれました



器も箸も全部手作り



森の中をそうめんが流れます



大歓声に包まれた芝生広場



松田さんによるチェンソーアート



出来上がった熊の置物

執筆者職・氏名：志摩市教育委員会阿児分室 社会教育指導員 関戸 透